



「芸の聖地」と呼ばれた浅草の歩みと 台東区文化振興事業「江戸まちたいとう芸楽祭」



台東区の浅草は、浅草寺の門前町として栄え、江戸の昔から庶民の文化が花開いた場所です。なかでも浅草六区には、演劇、落語、漫才、講談、浪曲などの劇場が集まり、「芸の聖地」と呼ばれました。この歴史を継承し、より発展させようとする取り組みが「江戸まちたいとう芸楽祭」です。特集では、浅草の大衆芸能の歴史と今年で6回目となった「芸楽祭」について紹介します。

◆江戸の昔から発展してきた大衆芸能文化の一大中心地、浅草

浅草公園六区の賑わいと 国際劇場の松竹歌劇団

国内外からの観光客で賑わう台東区浅草は、7世紀に建てられた浅草寺の門前町として栄えてきました。江戸時代には見世物小屋や大道芸人が参拝客を楽しませ、日本橋などから移転した歌舞伎小屋が集まり芝居町となった時期もありました。

明治時代になると、東京府による公園整備事業が行われ、浅草寺周辺の田んぼが埋め立てられて7つの公園地（区）ができました。そのうちの1つが浅草公園六区で、庶民の娯楽地として整備されました。明治当初は、東京府が高い公園使用料や営業制限をしたた

め、興行街としては不振でした。その後、地元の方々の働きで制限が緩和され、明治20（1887）年、六区に初めての劇場「常盤座」が開業。道化踊り、歌舞伎、新派劇（西洋と日本の劇を合わせた劇）のほか、活動写真（無声映画）も上映されました。六区には浅草富士（富士山縦覧場）や12階建ての凌雲閣も建てられ、多くの人で賑わいましたが、明治29（1896）年の大火災により大半が消失し、これを機に近代的な映画館街、劇場街となりました。

しかし大正末期の関東大震災で大きな被害を受け、世界的な不況も重なり、復興が遅れます。そんな中、喜劇や剣劇（チャンバラ劇）が登場して評判となり、女性役者も活躍するようになりました。女性の活躍という意味で欠かせないのが、国際劇場の舞台でレビュー（歌と踊りを主体としたショー）を披露し、観客を魅了した松竹歌劇団（昭和3（1928）年結成）です。松竹歌劇団の出身者は、退団後に女優や歌手として映画やテレビで活躍している水の江瀧子さん、並木路子さん、淡路恵子さん、草笛光子さん、倍賞千恵子さん等がいます。

昭和16（1941）年に起こった太平洋戦争により、大衆芸能は厳しく制限され、六区の賑わいもなくなります。戦後に再び息を吹き返し、映画街、劇場街としての活気が戻ってきました。テレビ放送の開始や全国各地に映画街ができたことにより、映画や演劇での賑わいは下火になりますが、現在は浅草寺を中心とした日本を代表する観光地として、海外からも多くの観光客が訪れています。



落語、漫才、講談、浪曲… 歴史のある劇場が今も健在



浅草演芸ホール
住所：台東区浅草 1-43-12 1・2階
<https://www.asakusaengei.com>

浅草公園六区には長い歴史を持つ大衆劇場がいくつもあり、多くの芸人を輩出してきました。浅草演芸ホールは、昭和39（1964）年、落語定席として開業。往年の桂文楽さん、古今亭志ん生さん、三遊亭円生さん等の高名な噺家と共に、後の落語界を担う古今亭志ん朝さん、立川談志さん、三遊亭円楽さん等もここで腕を磨きました。昭和46（1971）年に建物の1階に移り、以来、都内に4軒だけの落語定席の1つとして、落語をはじめ漫才、漫談、マジック、曲芸、紙切り、



浅草フランス座演芸場東洋館
住所：台東区浅草 1-43-12 4階
<https://www.asakusato yokan.com/information/>

ものまね、コントなどバラエティ豊かなプログラムで公演しています。東洋館の前身とされる東洋劇場は、昭和34（1959）年に開業し、渥美清さん、東八郎さん、萩本欽一さん、ビートたけしさん等のコメディスターを輩出しました。昭和46（1971）年の閉館を経て、平成12（2000）年に浅草演芸ホールと同じ建物の4階を改装し、「浅草フランス座演芸場東洋館」として新規開場。漫才や漫談を中心とした演芸を上演し、ベテランから若手まで、さまざまな笑いを体験できる「お笑いの発信基地」となっています。



木馬亭
住所：台東区浅草 2-7-5
<http://mokubatei.art.coocan.jp>

置した「木馬館」に因んだものです。昭和45（1970）年から浪曲定席の営業を始め、現在は浪曲のほか、軽演劇の上演も行っています。

**「芸人はお客さんが育てる」
浅草にスターの手型が並ぶ**

浅草では、「芸人はお客さんが育てる」と言われています。それは舞台と客席がとても近く、お客さんの反応がダイレクトに伝わってくるからです。台東区の広報紙『広報たいとう』令和2年元旦号の新春対談で、当時、江戸まちたいとう芸楽祭実行委員会顧問で、浅草演芸ホール・東洋館を運営している東洋興業(株)の会長の松倉久幸さんが



現在は343名の手型を設置。
写真は渥美清さんと天海祐希さんの手型とサイン



「芸人は、お客さんが育てるんです。『おもしろくない！引っ込め！』なんて言葉が平気で飛んできますが、浅草以外でこんなことはありません。（中略）こういう『反応』が浅草の良さであり、魅力だと思います」と述べています。

また、台東区では、大衆芸能の振興に貢献した芸能人の功績をたたえ、その業績を後世に伝えるため、昭和54（1979）年より手型とサインを浅草公会堂前の「スターの広場」と「オレンジ通り」の花壇に設置しており、大衆芸能ゆかりの地「浅草」の名所として、多くの方が訪れています。

◆台東区の芸能・伝統文化の魅力を発信する「江戸まちたいとう芸楽祭」

多彩な芸能・芸術文化を
肩の力を抜いて楽しめる

昨年10月から今年2月にかけて、

「江戸まちたいとう芸楽祭」を開催しています。今回で6回目となるこの催しは、粋、豊かな人情、進取の気性など、心を感じる「江戸まちたいとう」で、先人たちが守り、育み、現代へ継承されてきた多彩な芸能・芸術文化を肩の力を抜いて楽しめるお祭りです。造語の「芸楽祭」という言葉には、文字ど

おり、肩の力を抜いて気楽に台東区ならではの芸能文化を楽しんでいただきたいという願いが込められています。

台東区の歴史ある豊富な芸能や伝統文化を総合的に支援し、地域に根ざした取り組みとして展開、発信していくことで、区民や来訪者がこれらの文化に気軽に触れる機会の充実を図り、本区に根付く文化の継承・発展を目指しています。区と地域や民間事業者との協働による実行委員会が運営、事業展開しています。

実行委員会の名誉顧問は
ビートたけしさん

芸楽祭の前身は、「したまちコメディ映画祭 in 台東（平成20年～29年度・第1回～第10回）」と「したまち演劇祭 in 台東（平成22年～29年度・第1回～第8回）」。映画祭と演劇祭の2本立てで実施していた取り組みの課題・成果を整理し、映画・演劇だけでなく、本区の魅力ある芸能文化（漫才、落語、舞踊など）を総合的に発信する事業へとリニューアルしたものが芸楽祭です。

実行委員会の名誉顧問は、浅草で修業を重ねたことでも知られるビートたけしさん。日本を代表する芸人であり、俳優としても多彩な才能を発揮され、映画監督としても世界的に有名であることなどから、映画、演劇、芸能など多岐にわたるプログラムが詰まった芸楽祭の名誉顧問としての就任をお願いしました。芸楽祭では、たけしさんの故郷とも呼ばれる東洋館で毎年開催される「ビートたけし杯」の審査員を務めていただいています。

第6回江戸まちたいとう芸楽祭



江戸まちたいとう
芸楽祭

Edomachi-Taito Entertainment Festival

Geirakusai

第6回 江戸まちたいとう芸楽祭

期間：令和5（2023）年10月～令和6（2024）年2月

会場：生涯学習センターミレニアムホール、金杉区民館下谷分館、谷中区民館、平成小学校体育館、たなか舞台芸術スタジオ、浅草公会堂、上野ストアハウス、忠綱寺本堂、東洋館

主催：江戸まちたいとう芸楽祭実行委員会

後援：東京都／台東区／（公社）日本劇団協議会／（公社）日本芸能実演家団体協議会



公式サイト



Instagram



X（旧Twitter）

《 名誉顧問メッセージ 》

若い頃、辿り着いたのがこのまち。なぜか楽屋でタップを踏んでいた。お客さんが二人しかいない演芸場の舞台に立つオイラがいた。いろいろな場所で知らないお客さんが「一杯飲め」とお金のない自分に飲ませてくれた。小さい頃、兄ちゃんと初めて映画と寄席を観に来たのもこのまちだった。

あれから数十年、映画を撮ったり、絵を描いたり、藝大の先生にもなった。幾重もの生きた芸が交わるまち、このまちがオイラの原点。

肩の力を抜いて笑ってほしい、肩を震わせ泣いてほしい…芸楽祭。



名誉顧問：ビートたけしさん

屋形船での伝統芸能体験や 野外スクリーンで映画上映

映画、演劇、芸能の分野で それぞれに見どころが満載

「活力にあふれ多彩な 魅力が輝くまち」を実現

平成30（2018）年から始まった芸楽祭。現在は年1回の開催ですが、第1回と第2回は、夏の陣、冬の陣の2回に分けて開催しました。これまでに好評だった企画の1つに、第1回夏の陣で実施した「隅田川大江戸浮舞台」があります。屋形船で隅田川の川下りを楽しみながら、浅草芸者によるお座敷芸や日本独自の手品「和妻」、神事芸能の「江戸太神楽」など、江戸時代から続く実演芸能を堪能するもので、参加者の皆さんには伝統芸能の魅力を肌で感じていただきました。

また、第2回夏の陣のオープニングでは、上野恩賜公園に設営された野外大スクリーンで映画『ボヘミアン・ラプソディ』を上映しました。上映中は参加者による熱い声援と歌声によって、スクリーン前はライブ会場さながらの熱気に。QUEENの曲にのせたダンスパフォーマンスやQUEENを敬愛するミュージシャンによるトークショー等と合わせて、約7800人の集客となりました。

第6回となった今年度は、映画の分野では「まちかど映画会&和楽器ミニコンサート」（10月）と「まちかど映画会&弦楽四重奏ミニコンサート」（11月）。大ヒット映画『ファンタスティック・ビーストとダンブルドアの秘密』の上映と和楽器によるコンサート、子どもたちに人気の映画『ミニオンズ フィーバー』の上映と弦楽器によるコンサートを開催しました。

演劇の分野では毎年開催している「中高生ステージ」。台東区内の中学・

高校演劇部が日頃の稽古の成果を発表するもので、芸楽祭オープンに先駆けした8月27日、ミレニアムホールで開催しました。また、区内の劇場等で公演する団体との連携公演として、10月に1劇団が上演、1月に2劇団が上演予定です。芸能の分野では、毎年恒例の伝統芸能企画として、落語、漫才、動物ものまねを一度に鑑賞できる「たいとう芸楽寄席」を2月3日に実施予定。若手芸人グランプリを決める「ビートたけし杯『お笑い日本一』」を

2月9日に実施する予定です。

歴史や伝統に基づく文化芸術は、人々の心を豊かにし、生活に潤いをもたらし、まちやそこに住む人々の暮らしを活性化させます。

台東区内には今回取り上げた芸能文化をはじめ、数多くの文化資源があります。このような文化資源が失われることがないよう、確実に保存し次世代に継承していくとともに、文化を創造する人材の支援・育成、文化情報の発信、誰もが文化に親しむ環境づくりにも取り組んでいきます。

このような取り組みとともに、文化と産業、そして観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来への創造につなげていくことで、区の基本構想の基本目標にも掲げた「活力にあふれ多彩な魅力が輝くまち」を実現します。



上野恩賜公園での映画上映の様子



屋形船での伝統芸能体験の様子



中高生ステージの様子

取材協力 / 台東区、台東区立下町風俗資料館（表紙右上及び2ページの写真）